

国債先物 (中心限月)

2010.3.11

<日足から想定される今後1週間程度の相場>

日足は回帰値(緑色の実線)と高値圏(桃色の帯)の間で陽線のコマ(上下に影のある極短い足形)となっています。当面は高値目処を探る展開が想定されますが、上値抵抗線の1つである+2シグマ(赤色の実線)を突破して高値圏に入るのには難しいかもしれません。しかし、+2シグマを連続して跨いでいるので、日足は新しい上昇局面に入っている可能性が示唆されます。

<週足から想定される今後1カ月程度の相場>

週足は回帰値と高値圏の間で極短い陽線となっています。今週末に現在程度以上の水準で終わるようなら、今後高値圏へ向かって上昇する展開が想定されますが、今週末に回帰値を割り込む陰線で終わるようなら、反落に転じて下値圏(水色の帯)へ向かう可能性も残ります。また、上昇した場合には、高値圏の手前に+2シグマがありますから、+2シグマを跨いだ所で反落となる可能性もあります。

<月足から想定される今後3カ月程度の相場>

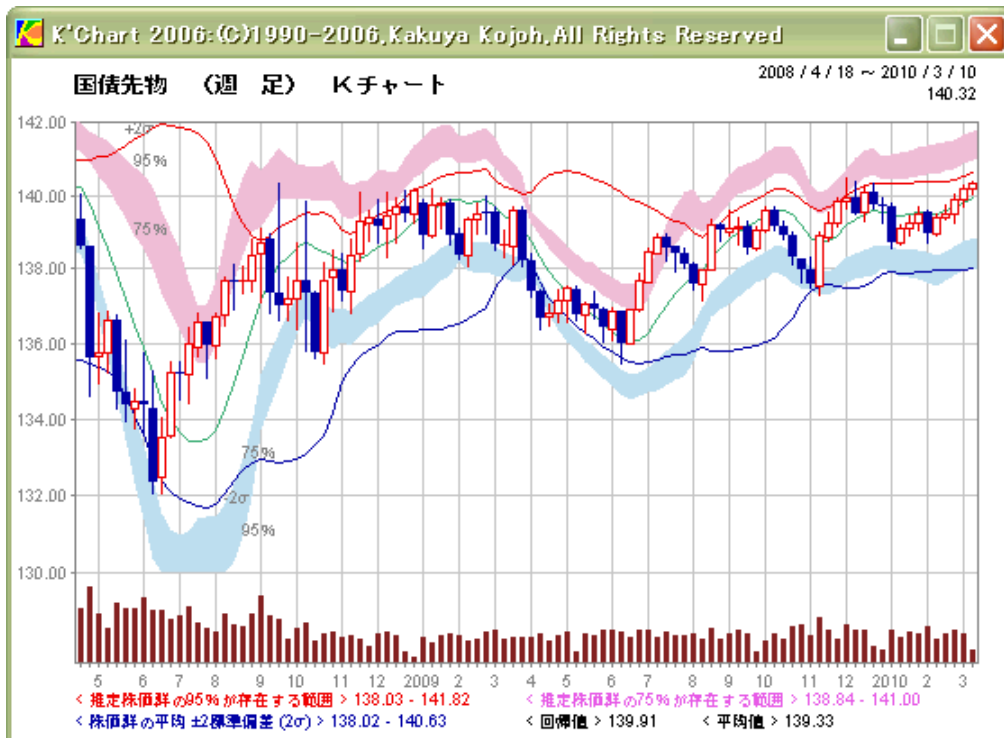
月足は回帰値と高値圏の間で短い陽線となっています。当面は高値圏へ向かって上昇する展開が想定されますが、高値圏の手前には上値抵抗線の1つである+2シグマ(赤色の実線)があり、これを跨いだ所で反落に転じる可能性があります。

国内景気は底を打ったとはいっても浮揚感は少なく、消費者物価指数はデフレ気味ですから、当面長期金利が上昇する環境にはありません。債券市場と株式市場は、一方が上昇すれば他方は下落するという関係にあることから、株式市場が上昇局面にある時以外は、債券市場が強含む展開となる可能性が高そうです。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではありません。その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようにお願いします。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではありません。その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようお願いします。